
ことばとは？ 生きるとは？ 時代を動かしたネコたちのものがたり

『うらないババと石川五ニャえもん』

2008年4月25日(金) 旺文社より刊行

教育出版社の株式会社旺文社(本社:東京都新宿区 代表取締役:赤尾 文夫)は、桃山時代の末期を舞台に、不老不死のネコ“うらないババ”を主人公としたファンタジー『うらないババと石川五ニャえもん』を、2008年4月25日(火)に刊行いたします。

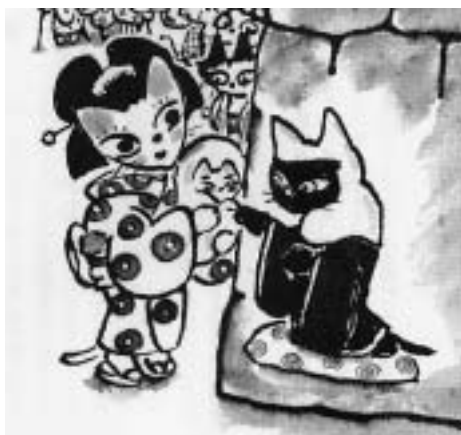
『うらないババと石川五ニャえもん』は昨年、毎日小学生新聞に連載された作品です。読者からの反響が多数寄せられ、このたび待望の書籍化となりました。

【出版概要】

書名：『うらないババと石川五ニャえもん』
作：大庭 桂
絵：くすはら 順子
発行：旺文社
体裁：A5判・上製、144ページ
価格：1,300円(税込/本体1,238円)
刊行：2007年4月25日(火)
対象：小学校高学年～



【本書の紹介】



時は桃山時代のおわり、栄華を極めた豊臣の世に影がさし、徳川が天下取りへ動き出すころ。
不老不死のネコ“うらないババ”の千里眼による占いは、京都中のネコたちの評判だったが、唯一、未来が見えないネコがいた。それは、秀吉の天下取りを支えた大泥棒 石川五右衛門に仕えていた“石川五ニャえもん一家”の跡継ぎ“クス丸”。
秀吉の行いを憂えた五右衛門とクス丸の父、五ニャえもんは、命がけで徳川に天下を託そうとするが、志し半ばで倒れる。父の遺言に従い、使命を果たすべく奔走するクス丸と、彼を見守るうらないババ。
激動の時代を陰で支えたネコたちの、「生きること」へのメッセージが込められた、純和風ファンタジー。

【著者紹介】

作：大庭 桂(おおば けい)

熊本県出身。1997年、毎日児童小説コンクールに「夢屋ものがたり」で入選し、児童文学者 木暮正夫氏に出会う。1999年「竜の谷のひみつ」(旺文社)で毎日児童小説最優秀賞、「海のそこの電話局」(旺文社)で海洋文学大賞佳作、「恋歌」で第一回長塚節文学賞大賞受賞。ほか、評伝「造景する旅人」(風土社)など。

福井県勝山市在住。日本児童文学者協会会員。

絵：くすはら 順子(くすはら じゅんこ)

大阪府出身。大阪樟蔭女子大学卒業。主な作品に「海のそこの電話局」(旺文社)、「じゅうにしのおはなし」「へんでこやまのうんどうかい」(ひさかたチャイルド)、「さるかにかっせん」(くもん出版)、「金のかんむり」(佼成出版社)など。

横浜市在住。日本児童出版美術家連盟会員。

【目次】

- 祇園さんのうらないパパ
- 人魚の肉
- 石川五ニャえもん一家
- トラ丸と石川五右衛門
- クス丸
- 石川五右衛門のゆいごん
- 弁当箱のなぞ
- 七福神の道具
- 七福神への道具返し
- 天下泰平の舞
- 子宝の勾玉
- それからのものがたり



【著者の大庭さんによる本書「あとがき」より】

いにしえより人々は、ふしぎな力がやどるものとして言葉をたいせつにしてきました。

古典の書かれた時代より千数百年後を生きる私どもの日常では、めざましい科学の進歩をみながら、言葉に対する畏敬がうすれ、悲しいことに、言葉をもって人を攻撃することさえあります。

人間にとって、言葉は生きていくためになくてはならないものです。わたしは、言葉の力と生きていく力について考えてみたくなりました。

<会社概要>

社 名：株式会社 旺文社
代 表 者：代表取締役社長 赤尾 文夫
設 立：1931年10月1日
本 社：〒162-8680 東京都新宿区横寺町 55 TEL:03-3266-6400
事 業 内 容：教育・情報をメインとした総合出版と事業
U R L：<http://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社旺文社 広報担当：三澤・山縣
TEL:03-3266-6292 FAX:03-3266-6045 E-mail：pr@obunsha.co.jp